



## ふれあいの丘 天文館だより



### ★工作教室『太陽投影望遠鏡を作ろう』 参加者募集!

- ◆日時 3月24日(土) 午後1時30分～3時
- ◆場所 ふれあいの丘天文館
- ◆内容 5月21日(月)の朝におこる金環日食の様子や黒点を観察できる太陽投影望遠鏡を、自分で組み立てて実際に太陽を投影してみましょう。投影板をはずせば、天体望遠鏡として月を観望することもできます。
- ◆対象 小学4年生以上(中学生以下は保護者同伴)
- ◆定員 20名(定員になり次第、締め切り)
- ◆参加費 大人300円、小中学生100円  
(別途、材料費として200円が必要)
- ◆申込方法 3月7日(水)から電話または直接  
ふれあいの丘天文館まで申し込み。
- ◆受付時間 午前9時～午後9時

### ★火星が3月6日に地球に最接近(小接近)

宵の東の空にひとときわ明るく赤く輝く星が目につきます。火星です。火星が赤く見えるのは、

表面が酸化鉄の砂におおわれ、太陽の光に反射して輝いているからです。火星は「赤い惑星」とも呼ばれ、その血のように赤い色から、戦争や不吉の前触れと考えられるなど、昔から人類とかかわりの深い惑星です。ギリシャ神話では軍神アレス、英語名ではマーズ(Mars)の名前が与えられました。

火星は地球のすぐ外側を約687日(約1年10カ月半)かけて公転する太陽系の第4惑星で、地球の半分ほどの大きさです。自転周期は、地球の1日とほぼ同じ約24時間です。

火星は2年2カ月ごとに地球に接近します。火星の軌道が楕円形のため、同じ「接近」でも遠い時と近い時があり、最も近い接近を「大接近」、最も遠い接近を「小接近」といいます。今回は、「小接近」(距離は約1億km)ですので、火星もそれほど大きくは見えません。(最大接近時の距離は、約5500万km)

火星の見どころとしては、高倍率の望遠鏡で観察すると表面に白い極冠(きょくかん)や黒っぽい模様も見えることがあります。

#### ■申し込み・問い合わせ

ふれあいの丘天文館 ☎(28)3254  
<http://www.fureai-tenmonkan.jp/>

## ふれあいの丘 自然観察館だより

### ●面白いシジミチョウの世界

チョウの仲間でもっと種類が多いグループがシジミチョウです。全世界で約5500種を超える数が知られていますが、小型で色や模様がとても美しいものが多いのが特徴です。はねの表と裏の模様が全く違っていたり、オスとメスで別種類のようなものもあります。

また、幼虫の食性が変化に富んでいるのもシジミチョウの特徴で、コケを食べるもの、肉食性のもの、さらにはアリと共生関係になっているものもあります。

### ●美しい「ウラギンシジミチョウ」

「ウラギンシジミチョウ」は、オスとメスで表側の模様の色が違いますが、裏側はともに見事な銀色をしています。

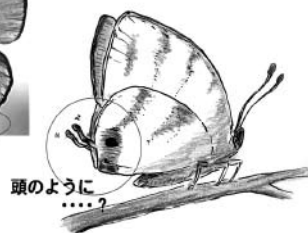
当館では、この他、絶滅危惧種に指定され、現在では採集できない「ゴイシツバメシジミチョウ」や幼虫時代アリに育てられる「クロシジミ



チョウ」など珍しいチョウを展示しております。

### ●「だましわざ」をつかう?シジミチョウ

シジミチョウの仲間には、はねに小さな突起(尾状突起)をもつチョウがいます。空中から舞い降りるとはねを閉じ、木の葉や枝にとまります。よく見ると、この尾状突起がチョウの触角に似ており、こちら側がチョウの頭部のように見えます。鳥はこの部分を頭と間違えてねらってしまう、チョウは大きなダメージを受けずに、大切な頭を守って逃げたしまうのかもしれない。



皆さんも小さな虫たちの不思議な秘密を発見してください。



#### ■問い合わせ

ふれあいの丘自然観察館 ☎(28)3131  
<http://www.fureaino-oka.com/shizen/>